

人工衛星搭載ハイパースペクトルセンサがとらえた 利根川周辺の土地利用状況（2）

データ収集：米国航空宇宙局（NASA）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲の第1、第2、第3主成分画像それぞれ「緑、赤、青」を割り当てて、カラー合成画像（主成分カラー合成画像）を作成してみました（右上）。比較のために、左上はナチュラルカラー画像（バンド 30：赤、バンド 40：緑、バンド 20：青）を掲載しました。一般的なナチュラルカラー画像に比べて、主成分カラー合成画像を見ると土地被覆項目の識別製が高いことが判ります。また、可視域（バンド 8～34）と近赤外域（バンド 35～135）の Hyperion データに対してそれぞれ主成分分析を適応し、主成分カラー合成画像を作成してみました。（下段）。これらの主成分画像の色調の違いを利用すれば、様々な視点から土地被覆の分析が展開できます。多バンドで構成されるハイパースペクトルデータに対する各種画像処理・解析結果は、いままでにない知見を与えてくれるはずです。

